

令和7年3月12日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立不動小学校
校長 日下 勝豊

令和6年度 目黒区立不動小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和6年 6月22日(土) 午前9時30分～午前11時00分
・校長「令和6年度学校経営方針」説明 ・校内観察 ・意見交換
- (2) 第2回実施日時 令和6年 9月28日(土) 午前9時30分～午後00時25分
・意見交換 ・校内観察 ・道徳授業地区公開講座 講演会
- (3) 第3回実施日時 令和7年 2月 8日(土) 午前10時00分～午前11時45分
・四者による学校評価アンケートの結果について ・意見交換

2 参加者

國宗 功 様 高橋 晶子 様 前野 希美 様
宮島 賓 様 篠澤 恵 様

3 評価の結果等 ※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ⊙(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	⊙「学校の雰囲気」については、児童・保護者・教職員ともに肯定的評価が80%以上である。学校教育の全般は概ね良好な状態だと捉える。 ◎「学習環境」については、児童・教職員の肯定的評価は90%程度と高い。保護者についても、昨年から10ポイント近く上昇した。学校公開、学校配信情報等で保護者に取組の成果が伝わったと考える。	・児童にとって楽しい学校生活となるように、教育活動全体の見直しを図っていく。 ・授業を含む教育活動の充実を図るとともに、学校公開等や学校ホームページ及びC4th Home&School等によって学校の教育活動を積極的に発信したりする。 ・教材教具や学校行事の充実も図っていく。	・基本的に次年度の教育活動の改善点でよい。できれば、保護者・地域がもっと学校に來校できるような環境を整えてほしい。 ・保護者・地域の協力については、住区・PTA・学校がより一丸となって(共催して)地域行事や防災活動等を実施できるようにすれば、児童・保護者の関心が高まる。

	◎「教職員の態度」については、保護者の評価は上がったが、児童については下がった。教職員は誠意をもって対応しているという意識であるが、それが児童に伝わっていない。 ◎「家庭・地域との連携」については、肯定的評価は90%を超えた。特に、教職員は10ポイント近く上昇した。コロナ禍の終焉が一つの要因として考えられる。	・「教職員の態度」は、教員としての心構えが一つの要因として考えられる。OJTを行い、改善に努めるとともに、児童との信頼関係や保護者との協力関係を築くことができるよう誠意をもって対応する。 ・引き続き良好な関係を保つことができるよう連携を深めていく。	
Ⅱ 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について	◎「教育目標」については、保護者の肯定的評価は、80%を超えた。「教育内容全体」についても、85%程度となり、学校教育活動が肯定的に受け止められている。	・教育目標の内容や達成のための取組等について年度当初の保護者会で説明するとともに、学校だよりや学校ホームページ等で日常の取組を紹介し、積極的に伝えていく。	・基本的に次年度の教育活動の改善点に沿って、保護者・地域に周知していく。
Ⅲ 心の教育について ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について	◎教職員の肯定的評価は100%で、児童も95%以上が肯定的に評価している。保護者の肯定的評価も80%を超えた。	・教員は、道徳科の授業実践のほか、いじめや不登校、友人関係のトラブルなどに真摯に取り組んでいる。 ・道徳授業地区公開講座を充実させるとともに、日頃の取組を学校ホームページ等で伝えていく。	・基本的に次年度の教育活動の改善点でよい。常に教育活動全体で必要に応じて行っていく。

Ⅳ 学習指導等について ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について	◎教職員と児童の肯定的評価は90%程度である。保護者は10ポイント近く上昇した。児童の学習の様子や教員の授業改善の努力が成果として現れている。 ◎「情報端末の活用」については、保護者は12ポイント上昇し、児童・教職員いずれも95%を超えた。	・教員は、基礎基本となる知識・技能の定着と、思考力・判断力・表現力等の育成を目指し、授業改善に取り組むとともに、学習用情報端末の効果的な活用を心がけている。今後も現在の取組を積み上げ、よりよい学習指導を目指す。 ・学習用情報端末のよりよい活用方法を、ルールの徹底や家庭での活用も含めて研究・検討していく。学校だよりや学校ホームページ等を通して積極的に伝えていく。	・基本的に次年度の教育活動の改善点でよい。児童の実態を把握し、適切な学習指導を実施していく。 ・子どもたちの自己調整力を高める教育を進めるにあたり、より有効な学習情報端末の活用を願う。
Ⅴ 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について	◎保護者の肯定的評価は前年度より10ポイント以上上昇した。教職員の評価も15ポイント近く上昇し、体力向上への取組が充実してきたことが考えられる。	・体力テストの結果を基に課題を明確にし、教育活動に取り入れていく。 ・休み時間も含め日常的に運動に親しみ、体力の向上につながる取組を工夫し、実践するように努める。	・児童の肯定的な捉え方が低下しているので、学校の教育活動においての課題を明確にし、解決策を検討し、積極的に改善に向けて取り組んでほしい。
Ⅵ 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて	◎児童の肯定的評価は90%を下回ったが、保護者の肯定的評価は昨年度より10ポイント近く上昇し、80%程度となった。 ・コロナ禍を経て形を変えてきた学校行事等について、引き続き児童の実態等を踏まえて改善を図る。	・学校行事・異学年交流・クラブ活動等も含め、児童にとって価値ある教育活動の充実を図り、その価値を保護者に周知するように努める。	・運動会は、従来と異なる内容となってきたが、子どもも保護者も地域も満足する充実した内容の運動会を目指してほしい。

Ⅶ 学校生活全般について ＜生活指導＞ ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて	◎保護者の肯定的評価が 16 ポイント上昇した。学校の対応や児童への関わり方などが保護者に伝わり、相互理解が深まったと考えられる。	・学習・生活規律は安定した学校生活の基本である。「不動スタンダード」の見直しを図りながら、教職員で情報を共有して、連携した指導を心がけ、児童の学習・生活規律の確立を図っていく。その上で、児童や学級の様子を保護者に発信していく。	・基本的に次年度の教育活動の改善点でよい。「不動スタンダード」は、常によりよいものに改善してほしい。
＜防災教育・安全指導＞ ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて	◎「安全教育」については、教職員と児童の肯定的評価は90%を超えている。保護者の肯定的評価は、90%を超えた。 ◎「事件・事故等の防止」については、教職員と児童の肯定的評価は 90%台であるが、保護者の評価は、70%半ばである。保護者への周知徹底の不十分さが要因であると考えられる。	・防災教育・安全教育、事件・事故の防止は、安全安心を重要とする学校が特に配慮していることである。引き続き避難訓練や安全教室、安全指導などの充実に努めるとともに、保護者へのPRを行う。	・基本的に次年度の教育活動の改善点でよい。防災教育・安全教育、事件・事故の防止は、保護者・地域・学校が一つになって推進していくことが大事である。
＜幼・保・小・中連携＞ ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について	●保護者の肯定的評価は昨年度より低下し、50%台となった。異校種と関わる取組の周知を図っていく。	・小・中連携活動や保・幼・小交流の取組の様子について、学校だよりや学年だよりで伝えとともに、学校ホームページ等で紹介する。 ・交流の取組について授業公開する。	・基本的に次年度の教育活動の改善点でよい。

Ⅷ 情報の発信 ・学校の情報発信の充実について	●保護者の肯定的評価は作年度同様高いとは言えない状である。学校だよりやC4thHome&School、学校ホームページ等での情報発信の方法、内容に十分でない部分があると考えられる。	・学校だよりや C4th Home&School、学校ホームページ等で、児童や学校の様子をこまめに伝えていくように努めるとともに、発信内容の精査・点検を十分に行う。	・学校だよりや学校ホームページだけでなく、学校側から保護者・地域に早く正確に直接情報が届く方法を考えてほしい。SNS等を大いに活用するのがよいのかもしれない。
Ⅸ 教員の人材育成について ・日常の職務をととして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について	◎肯定的評価が95%を超えた。教員が日常の職務を通して、専門性や協働性、教育公務員としての自覚を高めていると実感できていることがうかがえる。	・教職員が、職務経験等の差を越えて日常にかかわり合い、互いに学び合い高め合う環境づくりに努める。 ・人材育成に関するOJT研修の充実を図る。	・基本的に次年度の教育活動の改善点でよい。職員間だけでなく、保護者・地域ともコミュニケーションを積極的に図ってほしい。
X 教員の働き方改革について ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について	◎肯定的評価が前年度より10ポイント以上上昇し、85%を超えた。長期休業中の在宅勤務の推奨や通知表の見直しなどを行い、ライフワークバランスの再検討や教員の時間外勤務時間の縮減に繋がった。	・教員が児童に向き合ったり、授業の準備をしたりする時間を確保できるように、より一層会議等の精選を図る。 ・持ち時数や校務分掌を平均化させ、一部が過負担にならないようにし、全教職員が協働して教育活動に取り組むように努める。	・物理的な働き方改革への配慮も必要だが、教員としての職務に誇りとやりがいを感じ、全教職員が共同して教育活動に取り組むことを切に願う。
XI 服務事故の防止について ・服務事故防止に向けた取組などについて	◎肯定的評価が100%である。長期休業前に全体で服務事故防止研修を行うとともに、毎週の職員夕会での声かけ、課題を発見したときには全体で共有し服務事故防止に努めた。	・服務事故防止研修の充実、マニュアルやガイドラインの整備、常日頃の教職員への啓発、事故やトラブルを未然に防ぎ、充実した教育活動を目指す。	・基本的に次年度の教育活動の改善点でよい。